

決算公表

※平成17年度の市のお金の使い方
「決算」がまとまりました。
昨年度、市に入ったお金(歳入)は、
※普通会計で、383億6,554万円。
使ったお金(歳出)は、
373億5,379万円でした。

※合併前の旧町村決算と安曇野市決算を合算し、統計処理を行った数値を用います。決算額とは一致しません。
※普通会計とは、市民税や地方交付税などを主な財源として、福祉、教育の充実や道路の整備などの主要事業に使われる最も大きく主要な「お財布」です。全国共通のとらえ方で、自治体の財政状況を分析する上で有効なものになります。一般会計および同和地区住宅資金等が相当します。

■はじめに

決算は、市の運営に必要な経費について、市に入ったお金(歳入)と、使ったお金(歳出)を明らかにするものです。

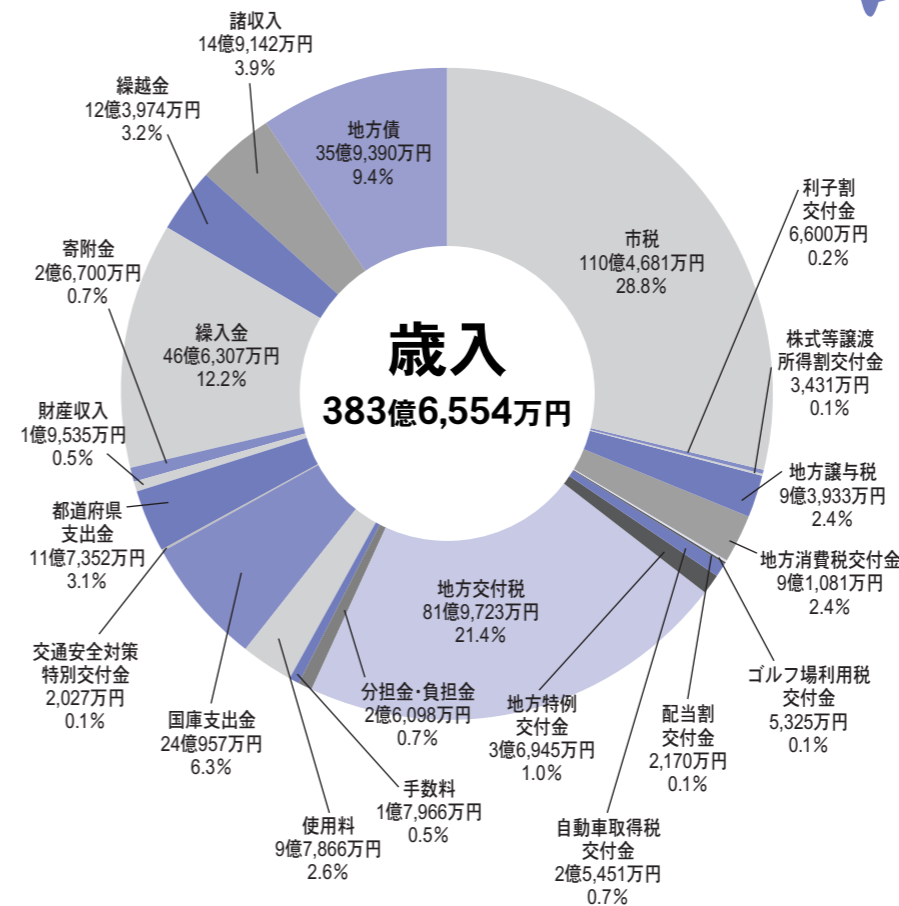
安曇野市には、14の会計区分(表1参照)があります。これはお金の使い道と会計の違いによるものです。

今回は、他市町村との財政状況の比較にも用いられる「普通会計」によって安曇野市の決算状況(1年間分)をお知らせします。

■歳入

歳入で一番多いのは、皆さんから納めていただいている市税で、約110億円です。

次に多いのは、地方交付税で約82億円です。地方交付税は合併にかかわる臨時的経費などが特別交付税として交付されたことにより、昨年度に比べ5億7千万円、7・5%の大きな伸



■歳出

人件費が昨年度に比べ2億円余り減少となりました。これは、合併の効果として、主に特別職(町村長・議会議員等)の人件費が削減されたことの表れです。逆に物件費が8億9千万円ほど増えていま

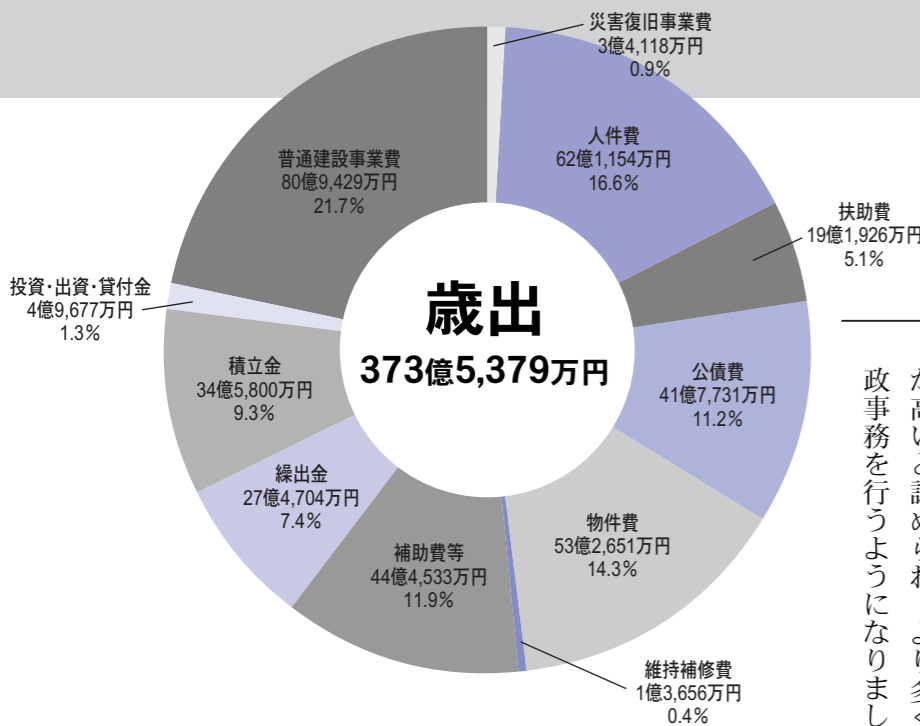
す。合併による経費、主には電算システム統合費用等が一時的経費として必要になったことが理由です。

■監査結果

平成17年度安曇野市決算については、監査委員からは「予算執行

状況はその目的に沿っておおむね適正に執行されている」との意見が付されています。今後に向けては「合併の効果が市民に実感できるように、高い視点と広い視野を持って市政運営を行うこと」、「効率的な予算配分、行政改革意識の醸成とコスト意識をさらに強めることにより経費節減を図り、市政の発展と住民福祉の増進に努力すること」と期待を込めた総括が行われています。

安曇野市の初年度の決算は良好に閉じられ、財政状況としても健全だと言えます。



安曇野市の歳出決算は373億円余り、10万人規模の自治体となったことにより、一番大きな穂高町の決算の約3倍になりました。

表1 平成17年度 決算額

会計名	歳入	歳出	差引残
普通会計 一般会計	22,794,570,902	21,791,297,786	1,003,273,116
同和地区新築住宅貸付資金	14,032,928	5,560,491	8,472,437
国民健康保険特別会計	4,560,847,301	4,183,207,276	377,640,025
老人保健特別会計	5,064,076,441	5,064,076,441	0
特別会計 介護保険特別会計	3,087,204,141	3,083,584,866	3,619,275
市営保養施設特別会計	34,276,108	29,950,917	4,325,191
下水道事業特別会計	5,133,358,843	5,036,024,654	97,334,189
農業集落排水事業特別会計	169,924,520	167,978,805	1,945,715
産業団地造成事業特別会計	20,496,734	20,493,798	2,936
上川手山林財産区特別会計	798,303	295,880	502,423
北の沢山林財産区特別会計	361,292	314,570	46,722
有明山林財産区特別会計	537,825	73,448	464,377
富士尾山林財産区特別会計	809,775	183,295	626,480
穂高山林財産区特別会計	594,369	281,692	312,677

(単位：円)

表2 一般会計 合併前後の決算額合計表

	歳入	歳出	差引残
H17安曇野市決算	22,794,570,902	21,791,297,786	1,003,273,116
合計	43,104,969,267	37,537,052,823	5,567,916,444
余剰相当額	△4,564,643,328		△4,564,643,328
H17年間決算	38,540,325,939	37,537,052,823	1,003,273,116

(単位：円)